



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2021年(令和3年)3月15日号 No.1853

## 目次

|  |                 |
|--|-----------------|
| ■ <b>最新のロシア地域総生産</b> .....             | 1               |
| ■ <b>新型コロナウイルス感染拡大に関するロシアの対応</b> ..... | ROTOBOモスクワ事務所 6 |
| ■ <b>統計速報</b> .....                    | 14              |
| 2021年1～2月のロシアのブランド別乗用車販売台数／14          |                 |
| ■ <b>キーパーソン</b> .....                  | 15              |
| ジョージアで元最年少首相が振り返り／15                   |                 |
| ■ <b>トピックス</b> .....                   | 16              |
| KDDI、モンゴルで5Gの相互接続実証を開始／16              |                 |
| NIS諸国の新型コロナウイルス関連ニュース／16               |                 |

## 最新のロシア地域総生産

### はじめに

ロシア連邦国家統計局は先日、2019年のロシアの地域総生産の統計を発表した。地域総生産は国内総生産(GDP)を地域別(州などのレベル)にブレイクダウンしたもののだが、GDPよりも発表が遅いので、このほどようやく2019年の数字が発表されたというわけである。そこで今回の速報では、この最新データを表にまとめてご紹介する。

表1では、2019年のロシア各地域の地域総生産、住民1人あたりの地域総生産が示されている。経済規模を示す地域総生産では、1位モスクワ市、2位サンクトペテルブルグ市、3位モスクワ州と人口の多い地域が上位に来る。それに対し、1人あたりの地域総生産ランキングでは、1位ネネツ自治管区、2位ヤマロ・ネネツ自治管区、3位ハンティ・マンシ自治管区、4位サハリ州、5位チュコト自治管区と、資源に恵まれ人口が希薄な地域が上位を占めている。

表2は、地域総生産の実質増減率を見たものであり、つまりは各地域の経済成長率である。2019年はロシア経済全体が低成長であったため、地域別でも芳しくない数字のところが目立っている。表3では地域ごとの産業構造を示した。

なお、ロシアによるウクライナ領クリミアの併合は国際的には承認されていないが、以下の表では南連邦管区の枠内でクリミア共和国およびセヴァストポリ市のデータも参考値として示すことにする。